

とができるようになると考えられる。課題となってくるのが、具合が悪いときに、いつから、どのように（その日の過ごし方でどのように気をつけるか等）を、言わずに簡単に伝えることが多かったことである。学級で、健康観察の仕方を、ある程度そろえていく必要もある。

## (2) 1. 3. 7. 30の法則

目的…学級経営の基礎をつくる。

1日目…担任が大切にすることを具体的に黒板に提示する。

- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。
- ・けじめ（時間・話を聞く）
- ・困ったことは先生に相談する

宿題は先生が大事にしたいことを覚えてくること。

3日目

毎日確認する

担任の話を聞くときは「手は膝の上」に置く。45分の中で何回も繰り返し、全員が膝に手を置くまで待つ。3日目までは、個人的な配布物がたくさんあるので必ず呼名し「はい」という返事の練習をする。その時必ずほめる。3日目までに「はい」の徹底。必ず毎日できたかどうかを評価する。

4日目～7日目

「はい」の徹底指導を平行しつつ、学習の始めと終わりの時間を守るように指導。わかりやすいように黒板に〇分～と書く。教師は、その時間に必ず始め終わる。

30日

教師が話をし始めたら、手は膝の上に置き、話している人の方を見ることを45分の中で何度も繰り返し行うことを毎日続ける。

法則に取り組むにあたって、学期の始めの1ヶ月は学級作りの基本であると思う。教師が提示したことに対して子どもたちが、がんばろうとする姿が見られたら必ずほめ、信頼関係の基礎をつくり、あるべき正しい姿へとめざそうとする子どもたちの気持ちを支えていくことが大切である。

## (3) 廊下歩行

児童の規範意識を高めるための具体的取組みとして、今年度も廊下歩行に重点を置いて取り組んだ。昨年度は、1学期から2学期にかけて「歩こうカレンダー」を配布し、一日の振り返りをさせることで、廊下歩行の意識化に成功し、3学期



には廊下を走る児童が大幅に減っていて、もう一段階上を目指す取組みを模索するところから、今年度が始まった。しかし、いざ新年度が始まると、進級やクラス替えによる環境の変化の中で、児童の廊下歩行の意識が薄れ、廊下を走る児童が多く見られるようになった。そこで、児童一人ひとりの廊下歩行の意識をもう一度高めるために、「歩こうカレンダー」の配布を6月より再開した。その際、名称を「てくてくカレンダー」と変更し、さらに毎月のカレンダーを貼り貯めておけるカードを配布し、以前の自分の様子を振り返ることができるようにした。

「てくてくカレンダー」を各自の机に貼り、帰りの会でその日の自分を振り返り、一度も走ることがなければ色を塗るという形でカレンダーを利用した。そうすることで、児童の意識が再度高まり、配布してすぐに廊下を走る児童が急激に減少した。また、カレンダーをファイルに張り貯めておくことで、児童の意識が継続的に保たれていたことも今年度の成果として挙げられる。

来年度への課題としては、カレンダーをなくしても、児童が廊下歩行を意識し続けられる取組みを考えることが挙げられる。